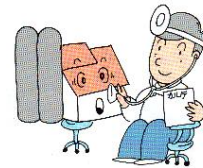
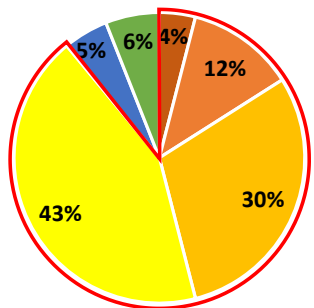


農業施設(CE・青果物集出荷施設)再編・統合への取り組み



○ JAとの共同プロジェクトにより、実態に即した改善対策を策定・実践

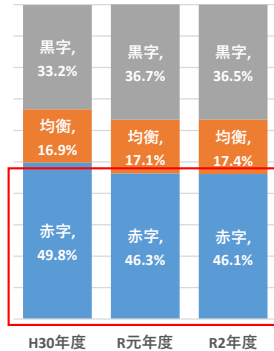
CEの現状



- ～S45年以前 (築50年以上)
- S46～S55年 (築40～50年)
- S56～H2年 (築30～40年)
- H3～H12年 (築20～30年)
- H13～H22年 (築10～20年)
- H23～R2年 (築10年未満)

CEの設置後経過年数

約9割が築20年以上経過



CEの収支状況

約4割が赤字経営

※出典 令和4年3月 農協カントリーエレベーター運営実態調査より

地域農業の基幹施設であるカントリーエレベーターやライスセンターは、老朽化に伴うメンテナンス費用の増加や稼働率の低下による収支の悪化などが、課題となっている。

取り組みの趣旨

- 本会は、施設機能・運営の改善のために、経営収支分析・施設の稼働実態調査・現地ヒアリング調査・建物の目視調査等を行ない、JAに設置する「改善プロジェクトチーム」とともに課題を抽出し、改善方針を策定。ハード・ソフト両面での総合的な改善具体策をJA組合長へ提案している。
- また、平成28年度よりコンサルティングの対象に青果物集出荷施設を加え、取り組んでいる。

役割分担

JA	連合会
「プロジェクトチーム」の組成、各種データ提出、他	JAとの調整、「プロジェクトチーム」への参画、調査診断、分析・改善提案、他

【コンサルティングの基本的なすすめ方】

1. ヒアリング調査

- 稼働実績、収支データ調査
- 施設オペレーターヒアリング
- 組合員インタビュー
(対象：個人農家、営農組織)

2. プラント稼働状況調査

- 荷受、貯留ビン、乾燥機稼働調査
- プラント全体の稼働状況調査

3. プラント・建物調査(目視)

4. 中間報告(改善方針提案)

5. 最終報告(改善具対策提案)

概ね1年

6. JAの改善実践に向けたフォロー

※経費は実費相当を有償とさせていただきます。

実施状況

令和5年5月現在

年度	H22-R4	R5	累計
JA数	46	1 (取組中)	47

※数字は、当該年度にコンサルティング契約を締結した延べ数
※累計のうち、共乾施設 44か所、青果物集出荷施設 3か所